

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|--|---------|------------------|
| 事業所番号 | 4071201000 | | |
| 法人名 | 医療法人 海洋会 | | |
| 事業所名 | ほんわかハウス新館 | | |
| 所在地 | 福岡県福岡市西区今宿青木792-4 (電話) 092-805-8800 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 25 年 7 月 16 日 | 評価結果確定日 | 平成 25 年 10 月 9 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様お一人お一人の個性を尊重し、その方のペースに合わせたケアを行っています。外出の活動においても、ドライブや散歩等は予定を立てずに天気の良い時にその日その日で行い、又、同法人内のグループホームと共同し、あじさいツアー、敬老会、クリスマス会、野球観戦などを開催しております。施設に関しましても、8:30~17:30までは開錠し、いつでも外に出れる環境を作っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|-------------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福岡県春日市原町3-1-7 | | |
| 訪問調査日 | 平成 25 年 8 月 22 日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

西九州自動車道、国道202号線バイパス沿いに位置し、独立型として住宅に囲まれた環境にある。事業所近くには地蔵があり、利用者の散歩コースになっている。行政、地域の事業所とグループを組織し、定期的に勉強会や地域の課題などについて意見交換が行われている。防災関係では、自主的に避難訓練が毎日行われているのも特徴的である。行事は法人全体で取り組まれていることが多く、複数の事業所が集まるため利用者、家族、職員が幅広く交流できる。

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------|----|---|---|--|-------------------|
| 自己 | 外部 | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 【I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ミーティングや勉強会で理念等の認識を行い実践につなげている。又、運営規程を置き、スタッフがいつでも見ることができるようにしている。 | 地域と家族の結びつきを大切に、地域に開かれた場として交流に努めるよう理念に掲げている。地域密着の姿勢や利用者一人ひとりの思いを尊重し、できないところをサポートしながら楽しい生活が送れるよう職員同士日々話し合われている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の清掃活動や、地域の行事、運営推進会議の案内状を送付している。 | 事業所は町内会に加入し地域の清掃活動に参加している。また、法人で開催する節句祭り、夏祭り、クリスマス会、餅つき大会等が地域住民との交流の場となっている。地域住民による洗濯のお手伝いや話し相手などのボランティア活動があり定着している。 | |
| 3 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議のお誘いや地域の方からの相談等を行っている。 | / | / |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、開催し、意見交換を行っている。 | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、別法人の小規模多機能事業所管理者もメンバーとして参加している。地域の課題や意見交換、徘徊高齢者ネットワーク制度、サービスの状況などが話し合われている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議への参加も促し、又、地域包括支援センターにも参加して頂き、実情やサービスの取り組みを説明している。 | 地域包括支援センターに空き状況等相談したり、市へは法的解釈について相談している。社会福祉協議会や他事業所と組織する地域密着部会では、警察署とも連携し防犯やいたずら電話に対する対応などについて講義形式で話し合われている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年に1回、勉強会を開き、講習を行っている。又、身体拘束についても運営規程を置き、スタッフがいつでも見ることができるようにしている。 | 日中玄関は解放されているが、近くを通る道路は交通量が多い為、センサーチャイムで外出傾向を把握して、行動の制限にならないよう付添い対応をしている。職員の意識を高め継続できるよう内部・外部研修へ参加し、研修後は全職員へ内容が伝達されている。 | |

| 項目番号 | | 項 目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|---|--|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティング、勉強会、研修等で虐待について学び、日常生活内での対応について見直す機会を設けている。又、ケアをする職員においても、適度な休憩やリフレッシュ休暇の付与など、職員個々のストレス軽減を図る事にも注意を払っている。職員間で密なコミュニケーションを図っている。 | | |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度について職員間理解して頂くために、資料を閲覧できるよう設けている。契約の際、ご家族様に説明させて頂いている。グループホーム内で勉強会を行い、スタッフが学ぶ場を設けている。 | 現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している利用者はいないが、契約時にこれらの制度説明は行っている。職員は制度について外部研修へ参加し伝達研修で理解を深めている。 | |
| 9 | — | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に十分な説明を行い、納得を得ながら進め合意を得ている。必要に応じて数回に分けてご家族との相談の時間を設けている。又、ご家族がいつでも尋ねられるよう職員全員が窓口となっている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にて、ご家族、地域包括支援センタースタッフ、地域の方々と交えて、意見交換を行っている。家族会も定期的に開催し、来訪時にも意見等を聞いて参考にしている。又、必要に応じて管理者や担当職員が個別に時間を設けている。 | 管理者や職員は、日常的に利用者・家族の意見や思いを把握するように努め、意見を言われない家族には言葉をかけ、話し方や表情等から意見等を引き出すよう努めている。家族からの希望による毎日の入浴について、ケア方法の検討することで入浴回数を増やして対応したり、医療面では体調に変化がある場合はその都度家族へ報告するなど、連絡頻度やタイミングを変更している。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務やケア・運営面において普段から職員と話をする時間を設けている。 | 管理者は職員の意見、不安を日常的に聞く姿勢を持っており、声をかけ、信頼関係を築いている。リネン交換の曜日変更や食事時間の変更など、職員の意見を取り入れ運営に反映させている。 | |
| 12 | — | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に2回人事考課を行い、自己評価を行っている。各自半年間を振り返り、今後の課題や目標をたて、就業に繋げている。個々の評価と所属長の評価を踏まえて賞与の査定としている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | 9 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 採用にあたり、特別な選考等は行っていない。事業所の職員においては、個々の能力の把握に努め、長所を伸ばせるような指導・支援を行っている。職員の配属・配置において、ユニットのバランス・状況を踏まえ行い、人事の異動も必要に応じて行っている。 | 職員採用は本部で行っており、性別や年齢などを理由に採用対象から排除していない。法人内で異動もあり、適材適所で働ける環境にある。職員教育も内部・外部研修で自己研鑽に努められるよう体制が整っている。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権教育・啓発活動等の講習会に参加し、職場内での勉強会も行っている。資料の閲覧やミーティング等で全職員にフィードバックしている。 | 職員に対する人権教育として人権啓発センターの指導員を講師に招き、人権に関する内部研修を開催している。日頃から人権を大切にしたいケアに努められるよう取り組みが行われている。 | |
| 15 | — | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJTを含め、テーマ別勉強会や新人研修等を行っている。又、グループホーム協議会研修や福岡市主催の研修など、研修年間計画を作成し、職員個々の適性を見極めながら必要な研修に参加できる環境を作っている。研修内容に関しては、資料の閲覧、ミーティング時のフィードバックなど全職員が共有できる仕組みを作っている。 | | |
| 16 | — | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福岡県高齢者グループホーム協議会主催の研修やブロック内での勉強会、情報交流会などに積極的に参加している。地域運営推進会議には、同町内の他事業所にも参加して頂き、交流を図っている。 | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 17 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人と面談し、身の回りで困っていること、不安、悲しみ、嬉しいことなど、傾聴している。ご家族協力のもと、個々のアセスメントを行い、職員間で連携しながら、ご本人の要望にそって安心して生活できるよう、常に笑顔で接するよう心がけている。 | | |
| 18 | — | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族から、相談があった時は、いつでも相談を受けている。利用者・ご家族の希望に沿った生活へと援助できるよう話しやすい関係づくりに努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|--|---|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | — | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族の協力のもと、利用者の状態、生活歴、バックグラウンドの早期把握に努めている。ご本人やご家族の意向、要望・思いを考慮し、アセスメントを行い、ケアプランを作成している。又、常時アセスメントを行い、スタッフで共有している。 | | |
| 20 | — | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々の習慣を大切に、それぞれのペースに沿って生活して頂いている。起床・食事・入浴の時間を決めておらず、本人の希望にそうよう努めている。食事と一緒に作ったり、家事も協力して行っている。 | | |
| 21 | — | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 月に一度のお便りや会報誌を発送している。ご本人の状態、相談等の連絡もさせて頂き、来訪時にも様子などを伝え、要望や意見を伺っている。又、電話での会話が可能な方には、自由にご家族と話ができるよう支援している。 | | |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 個別支援として、行きたい場所、会いたい人に会えるよう同行している。ご家族に相談し協力を得て、本人が行きたい場所には同行し、会えない時には、電話をかけた後、かけて頂いたりしている。来訪時、意志疎通が困難などの場合、スタッフが同席し支援している。 | 職員は、入居後も利用者が大切にしてきた人や場所を継続的に聞き取り、関係が維持できるよう支援している。知人や教え子数名の訪問は大変喜ばれている。地域の行きつけの美容室へのカットや銀行等への外出支援もしている。 | |
| 23 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士、コミュニケーションがうまく図れるよう席の配慮など考慮している。居室にこもりがちな時には声を掛け、利用者様が一緒に楽しめるよう歌を歌ったり、過ごしやすい環境作りに努めている。 | | |
| 24 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、相談などを受けている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|-------------------------------------|----|--|---|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 定期的、且つ日常的にご本人の意向や希望の確認を行っている。困難である場合には、日常生活の中で、喜びに感じているものや安心できるもの、不快に感じるものを把握し、ご本人の思いに近づけるように努めている。 | 職員は、利用者の入所前からのアセスメントを把握し、どのような人生を歩んで来たかを少しでも理解するよう努め、何を求めているのか、どうして欲しいのかを、共に生活する中で真摯に関わろうとしている。決して答えがでない方もおられるが、ひとりの人として、ありのままを受け入れるようにしている | |
| 26 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人から直接尋ねることや、ご家族からも情報を頂いている。日常生活のコミュニケーションや行動からも情報を得ている。収集できた情報はスタッフ間で共有しケアに反映させている。 | | |
| 27 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中で、個々の生活のペース、心身状態、コミュニケーション、生活歴等の把握に努めている。又、馴染みの習慣や好みなどを把握し、その人らしく生活が送れるよう支援している。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人がより良く生活できるように課題とケアの在り方についてご本人、ご家族、必要な関係者と密に情報を交換し、現状に即した介護計画を作成している。又、ミーティング時にカンファレンスも行っている。 | 職員がそれぞれ利用者の担当として、心身の状態や生活状況・既往症の変化等を見ながら抽出した課題に、家族・利用者の気持ちや考えを伺いながらケアプランの原案を作成している。最後は計画作成担当者が作成するが、担当者会議を行いながらケアのありようについて協議を重ね、半年に1回、状況が変われば随時見直しをする。利用者・家族の同意後、署名・押印を頂いている。 | |
| 29 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の様子、ケアの実践、内容、結果等を個別に記録している。浮き彫りになった問題や課題をスタッフ間で情報共有し、ケアの見直しを図り、より良い支援ができるよう努めている。 | | |
| 30 | — | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 現在の介護計画にとらわれず、その都度生まれるご家族、ご本人の希望、課題に対応し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|---|--|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | — | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域での生活の中で、その資源を把握し、資源を活用しながら、ご本人が安心かつ安全に力を発揮し、自分らしく豊かな生活ができるよう支援している。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望やこれまでの生活を大切に、かかりつけ医を選んで頂いている。医療機関と事業所の関係を築きながら、安心かつ安全な医療を受けられるよう支援している。又、定期的な診察も受けることができ、医師とのやり取りの内容もご家族に報告している。 | ほとんどの利用者が入所時より事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。また、治療内容に応じて他科受診にも対応している。早め早めに状態の変化に気付くように体調確認を行い、医者・看護師と情報共有を行っている。受診結果や経過等もその都度家族に報告し了解を得ている。 | |
| 33 | — | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携日報を作成し、日々の心身の状態や情報、受診結果などを記録し、ご本人が安心かつ適切な看護を受けられるよう密に連絡している。定期的な来訪に加え、急変時には医師や看護師に連絡して、診察又は指示を仰いでいる。 | | |
| 34 | — | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ご本人が安心かつ安全な治療がうけられるよう病院と密に連絡を取り、情報交換に努めている。そうした場合に備え、ご本人のカルテがある病院を把握し、搬送先については事前にご家族に要望を伺っている。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化や終末期の在り方についてご家族と話し合いを行い、事業所が出来る事を説明、理解して頂き支援している。又、入居後も心身の状態に伴い、意向や対応方法について相談している。ケアプラン更新時にも、ご本人の意向を伺っている。 | 重度化や終末期の看取りに関する指針は整備・明文化されており、入所時に本人・家族の意向を伺い同意書を得ている。入所後の利用者の心身の状態変化に応じて、主治医・本人・家族と望んでいる気持ちを看取りや介護に反映していき、寄り添った支援ができるように定期的に職員の研修を行っている。 | |
| 36 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故に備え、スタッフは勉強会や研修に参加して実践力を身につけ、応急処置ができるよう定期的に訓練を行っている。また、対応マニュアルも作成している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|----|--|--|--|--|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎日、防災訓練をし職員が緊急連絡網などを把握している。防災設備の点検も業者を通して行っている。又、年に2回大規模な避難訓練を行い（1回は消防署立会い）、地域の方やご家族にも参加を促している。マニュアルも作成している。 | 消防計画を基にマニュアルに沿って年2回の防災総合訓練を消防署や消防団の参加で実施している。訓練には地域住民にも呼びかけている。又、職員を中心に、毎日火災や自然災害を想定して午前・午後のいずれかに避難誘導等の訓練を行うなど熱心に防災意識を高めている。 | 施設・人員に見合った飲料水・食糧、防寒用寝具等必要な非常用備品の量について、管轄の消防署などに相談・検討し、事業所内に整備していただきたい。 |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人が沢山いて話にくい内容の時は耳元で声かけを行ったり、場所を移動して声かけしている。 | 利用者に対しては、敬意をもった折り目あるきちんとした対応で、明るく笑顔で声かけ等を行っている。利用者への職員の言葉遣いや接遇に慣れが生まれないように十分気をつけ、職員同士でも気をつけながら意識化に努めている。また、人格の尊重やプライバシーの保護・個人情報の管理や守秘義務遵守などの研修や勉強会などを積み重ね、その重要性を高めている。 | |
| 39 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の方の理解力に応じて、短い言葉や動作での声掛けを心掛けている。又、2～3の選択肢の中から選んで頂くような工夫をしている。 | | |
| 40 | — | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や様子を見ながら、その方のペースで過ごしてもらっている。ドライブや買い物等、個々の希望にそって、その都度支援している。ご本人の「やりたい事」を「やりたい時」に支援できるよう、希望にそえる努力をしている。 | | |
| 41 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 要望がある時は、希望の美容室へ行って頂いている。以外の方は、2ヶ月に1回の訪問美容室を利用して頂いている。何を見たいか伺ったり、洋服を見せて選んで頂いている。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好き嫌いを聞き入れている。献立を作る時にも、何が食べたいか聞き入れている。その他に、盛り付け、下膳、食器洗い等できる範囲で家事をして頂いている。テーブルの配置、同席の方との関係も考慮している。 | 本人の嗜好や栄養バランスに気を配り、味付けや料理の品数、いづれにも配慮している。利用者も盛り付けや後片付けなどを一緒に行ったり、玄関先のミニ菜園で採れた野菜を食材にするなどして、皆が集まる場・食堂での話題の一つにするなど楽しく安心して食事ができるように工夫している。 | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|--|---|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | — | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | キザミ食・ミキサー食・トロミ剤を使用する等、その方にあった食事を提供している。食器も重さや形・好みの配慮をしている。夜間も必要に応じて軽食や飲物を提供している。食事が低下している時には主治医に相談し、補助食の提供を行っている。 | | |
| 44 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々の状態に応じて、口腔ケアの支援をし、ご自分で磨くことが出来る方には見守りや仕上げ磨きを行っている。必要な方には歯科往診をしてもらっている。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表に記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。そのパターンに合わせ、声掛けや誘導を行っている。又、おむつやパットの使用、一部介助から全介助まで十分検討し支援している。 | 職員は排泄介助は最もデリケートなケアであるという認識のもと、羞恥心やプライドを大切に声かけ・誘導を行っている。便秘等の排泄困難な方へも体調・ストレス・処方薬などの影響がないか様々な根拠と原因を検討している。利用者の重度化が進行しているため、適切な介護用品の決定を自立支援を留意しながら支援している。 | |
| 46 | — | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排便状況をチェックし、マイナスが続く方には毎食後トイレの声掛けや水分摂取など調整しながら便秘の予防に取り組んでいる。食事でも、食物繊維の多いもの等、便秘に効果のある食物を取り入れている。医師と相談し緩下剤の調整も行っている。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている | 個々の希望やタイミングにあわせて入浴が楽しめるように支援している。浴槽に入るのを拒否される方にはシャワー浴、男性スタッフを嫌がる方には女性スタッフが介助するなど、それぞれのペースにあった支援をしている。シャワー浴で対応している方には、足浴も行ったりしてリラックスできる場面を提供できるように努めている。 | 週2回の入浴を原則としているが、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応できる態勢をとっている。入浴を拒否する方に対しては無理をせず根気よく対応している。また、表面的な現象だけではなく何が原因なのか分析し、話し合い検討している。 | |
| 48 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安眠できるよう電気の明るさや温湿度等を調節し支援している。夜眠ることが難しい方には、日中の活動をスタッフ間で検討している。共用スペースには、ソファや椅子を多く設置し、好きな場所で休息できるようにしている。休息中は膝掛けなどを使用し保温に努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|--|--|--|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | — | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々のカルテや処方薬はスタッフが管理し、受診や往診の都度確認し情報を共有している。薬変更時や状態に変化があった時には1日数回バイタルチェックを行い、身体観察をしている。服薬が困難・拒否がある方には、医師の指示のもと薬を潰したり、蜂蜜を混ぜて提供している。月に2度居宅療養管理指導を行ってもらっている。 | | |
| 50 | — | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の生活歴や、バックグラウンドを把握し、その方の有する能力に合わせた役割を見つけ支援している。一緒に歌ったり、家事をしたり、買い物、ドライブ等、入居者が生活を楽しめるよ支援している。又、買い物に行くだけでなく、ヤクルト販売に来て頂き、ハウスでの買い物もして頂いている。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者様に希望を伺ったり、声をかけたりして、散歩、買い物、ドライブ、日光浴等の支援を行っている。入居者様と一緒に買い物に行くように心がけ、商品も選んで頂いている。時には、祭りや野球観戦やあじさい見物等、季節や趣向に応じた支援を行っている。 | 散歩や外出などの外出は立地的に難しいところもあり回数は少ないが、利用者のリクエストを参考に、博多の季節行事などを踏まえてのドライブを楽しみにしており、月に6回～7回程度行っている。途中でおやつを揃え、行く先々で職員と一緒に楽しんでいる。 | |
| 52 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持たれている方の現金はハウスにて預かり、必要時にお渡ししている。一緒に買い物や銀行に行き、会計時には見守り、支払った金額や残金の確認を行い、個人の出納帳に記入しレシートを貼っている。又、ご家族には毎月出納帳とレシートのコピーをお渡ししている。 | | |
| 53 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は自由に使用できる所に設置している。「電話をしたい」と希望があれば受話器をお渡しし、「かけて欲しい」と言われた時は代理で話をしたりしている。又、年賀状等を書く方にはスタッフが葉書を購入し投函している。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や飾りを飾ったり、廊下に歌や写真等を飾っている。テレビの音、声、風、光、温度の調節を常に行い、生活しやすい環境作りに努めている。 | リビング（食堂）のそばに、テレビが置かれている畳敷きの居間があり、利用者の方々の居心地の良い寛ぎの場となっている。利用者の視線に合わせて習字や絵画の作品・写真、歌詞カードなどを飾っている。 | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|---|---|---|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 席の配置は入居者同士の相性等を考慮して決めている。ソファにて気のあった人同士で歌を歌われる時もある。一人になりたい方には見守りを行うが、孤独にならないよう、時折声をかけている。廊下や玄関に椅子があり、好きな場所で過ごせるようにしている。他の方の居室など遊びに行けるように声掛けしている。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際、タンスなど使い慣れた物を持って来て頂いている。ご本人やご家族に相談しながら、居室に飾り物も置かせて頂いている。入居者様の毎日の動線に配慮しながら、ご本人がリラックスできるような空間作りにも努めている。 | 入所する前の利用者の部屋の状況や生活空間を確認し、参考にしながら本人が安心できる空間になるよう馴染みの家具や調度品、思い出の品などが置かれている。採光や空調管理、生活音などにも配慮されており、安心できる環境を維持している。 | |
| 57 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下、トイレ、浴室は手すりを付け、車いすの方が通りやすいよう通路を広くし、入居者様の身体機能を配慮し座りやすい席について頂いている。足元に物を置かない等安全かつ、自立した生活が送れるよう努めている。目につく所に、カレンダーを置いたり、トイレなどには、わかりやすい表示をしている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|---------------------------------|----|---|-----------------------|--------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） | | | | |
| 58 | — | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27) | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2／3くらいの |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1／3くらいの |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんど掴んでいない |
| 59 | — | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40) | <input type="radio"/> | ①毎日ある |
| | | | <input type="radio"/> | ②数日に1回程度ある |
| | | | <input type="radio"/> | ③たまにある |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 60 | — | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40) | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 61 | — | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39) | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 62 | — | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51) | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 63 | — | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33) | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 64 | — | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30) | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | <input type="radio"/> | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | <input type="radio"/> | ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|---------------------------------|----|--|------------------|---------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） | | | | |
| 65 | — | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21) | ○ | ① ほぼ全ての家族と |
| | | | | ② 家族の2/3くらいと |
| | | | | ③ 家族の1/3くらいと |
| | | | | ④ ほとんどできていない |
| 66 | — | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22) | ○ | ① ほぼ毎日のようにある |
| | | | | ② 数日に1回程度ある |
| | | | | ③ たまにある |
| | | | | ④ ほとんどない |
| 67 | — | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | ① 大いに増えている |
| | | | | ② 少しずつ増えている |
| | | | | ③ あまり増えていない |
| | | | | ④ 全くいない |
| 68 | — | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | ① ほぼ全ての職員が |
| | | | | ② 職員の2/3くらいが |
| | | | | ③ 職員の1/3くらいが |
| | | | | ④ ほとんどいない |
| 69 | — | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | ① ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ② 利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③ 利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ ほとんどいない |
| 70 | — | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | ① ほぼ全ての家族等が |
| | | | | ② 家族等の2/3くらいが |
| | | | | ③ 家族等の1/3くらいが |
| | | | | ④ ほとんどいない |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|---------------------|----|---|---|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 【I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者及び全職員が理念を共有している。入居者お1人お1人が「主人」であり、個々人のご希望に沿って生活ができるよう、日々、職員1人1人が工夫しながらケアを行っている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の清掃等にも積極的に参加を行っている。また、敬老会、夏祭り、もちつき大会等の行事で地域の方との交流を図っている。 | | |
| 3 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2ヶ月に一度、運営推進会議の場を設けているが、出席者が少なくなってきた。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度、運営推進会議で日頃のホームでの取り組みの紹介や皆様からの意見交換を行える場を設けている。会議録は、職員間で回覧し、内容を共有する事で、サービスの向上を目指している。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センターや、近隣の病院等にホームの空き状況や情報を伝え、紹介等があると担当者や相談、連携を図っている。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでおり、難しい方がいても、職員同士で話し合い、いろいろとケアの工夫をして協力し合っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|---|--|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待防止について全職員理解をし、日々のケアに努めている。適度な休憩や休養を取るなどして、職員のストレス軽減にも努めている。また、管理者は、職員の心身の状態の把握に努めると共に、疲れ、ストレスの軽減を図るよう配慮している。 | | |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員に関しては研修や勉強会などの機会を設け制度の理解に努めている。また、ご家族にも家族会などの折を見て、資料の提供や制度の説明をするなどして理解を深めていただいている。制度の利用が必要な場合には、出来る限りの支援をしている。 | | |
| 9 | — | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用契約時には十分な時間をかけ利用者、ご家族の不安を取り除きながら、理解、納得をさせていただいている。契約後に、不安な点があった場合や解約希望時などには、その都度、対応させていただいている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者自らが、意見、不満、苦情を言う事ができる信頼関係作りに努めている。意見や苦情があった場合には、職員間で話し合い、ご本人の意見、意向を日々の生活の中に反映する事ができるよう努めている。 | | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、個々に意見や提案を聞く機会を随時、設けている。 | | |
| 12 | — | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は、職員1人1人の勤務状況等を把握し、話し合いの場を持ち、各自が向上心を持って働けるよう、配慮している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|---|--|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | 9 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 採用にあたり、特別な選考等は行っていない。事業所の職員に関しては、個々の能力の把握に努め、長所を伸ばせるような支援、指導を行っている。また、職員が意見、提案をしやすい環境作りに努めている。 | | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権教育啓発を学ぶ為に、地域での勉強会に参加し、その資料を職員で共有している。 | | |
| 15 | — | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者は、職員一人一人にあった外部の研修に参加させたり、その研修内容をフィードバックしながら職員の質の向上に努めている。 | | |
| 16 | — | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福岡県GH協議会主催の研修に参加したり、ブロック内での研修や意見交換の場を活用し、交流を図っている。また、事業所主催のもちつき大会等に他の施設の利用者様や職員を招き交流している。研修での内容は全職員にフィードバックするようにし、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 17 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に、ご本人にお会いし、困ってる事等、聞く機会を作っており、その方のニーズを受け止められるよう努めている。 | | |
| 18 | — | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学时や入居申込みに来られた際、お話を伺い、否定したりせず、話を聞き受け止める努力をしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|--|--|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | — | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている | ご本人、ご家族の話を時間をかけお聞きし、 ご本人、ご家族の思いや悩みを聞き取り、 サービスの情報を提供している。また、必要 に応じて、他のサービス利用の情報も提供し ている。 | | |
| 20 | — | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている | テレビ等と一緒に見て、その季節の行事や古 い風習等教えていただいている。新聞やテレ ビ等と一緒に見て、喜怒哀楽を共にし、お話 する事により、その入居者様の思いや悩みを 聞く機会を作り、共に支えあう信頼関係を築 いている。料理について教えていただくこと もある。 | | |
| 21 | — | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている | 月に1回ご家族に手紙にて、様子等教えてい る。時折、電話や来訪時に近況を報告してい る。ご家族からのケアや諸手続き等の相談が あった場合には、その都度、対応させていた だいている。急な状態の変化があった時な ど、様子によりご家族に電話報告を行ってい る。 | | |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている | ご家族に確認をとった上で、付き添い外出を したり、電話にてお話していただいている。 以前過ごされた所や思い出の場所にドライブ に行ったり、知り合いのいるお店などに出か けたりしている。入居者様の友人が来訪され た際は、様子によりご一緒し、間を取り持つ 等、対応行っている。 | | |
| 23 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様が、リビングにて、他の入居者様と 楽しくゆっくり過ごせるように、リビングで の席の配置は入居者様の相性を考慮して座っ ていただいている。その人に合った作業を見 つけ、入居者様同士や職員と一緒にしてい ただいている。様子により、別のユニットへも 行き来できるようにしている。 | | |
| 24 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても、連絡を取り合っ たり、ご家族のご相談をうかがう事もある。 希望がある時は、伺う時もある。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|-------------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | いつもの生活の中で（一緒に過ごす中で）いろいろお話しをし、ご本人の思いや希望をお尋ねし、意向の把握に努めている。ご本人より聞き取り困難な場合、その方の以前の思いや希望をご家族にうかがい、ご家族の意向をお聞きしている。 | | |
| 26 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族やご本人との会話の中で情報収集を行い、把握に努めている。入居前にご家族の方に記入していただいたり、担当のケアマネジャー等から情報を提供してもらっている。友人等の来訪者があれば、その方との関係や思い出話など、うかがっている。 | | |
| 27 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 睡眠、排泄、食事量、入浴においては、チェック表や記録に記入している。心身の状態、有する力においては、個人記録やカルテに記入している。血圧測定、検温は毎朝行い、その日の状態の把握に努めている。歩行状態の観察、体調の変化等があった場合も細かく記録に残している。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月ケアカンファレンスを行っている。介護計画更新前にご本人とご家族に希望をお聞きしている。医師と連携を図り、ケアに生かしている。ご本人にどのように過ごしたいかの要望を伺い、日々のケアや生活に反映できるように取り組んでいる。 | | |
| 29 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアの見直しがしやすいようにケアプランチェック表を用いている。実践した結果等を個人記録に残し、情報を共有している。気付いたことは、職員間で話し合い、工夫やケアの見直しを行っている。 | | |
| 30 | — | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の体の状況等により、他科の受診や往診等を行っている。（ご家族より要望があれば、職員が付き添っている。）個別の対応（外出等）を行うなど可能な限り柔軟な支援をしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|---|---|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | — | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防団や消防署の方、地域の方を交えての避難訓練を行っている。月2回歌の会をボランティアの方主導で行ってもらっている。校区公民館との交流も図っている。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所のかかりつけ医の他、ご本人、ご家族が要望される場合は他科を受診していただいている。医療連携日報をつけ、かかりつけ医との連携を図っている。 | | |
| 33 | — | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 受診日やそれ以外の日も、入居者様の体調等にて気になることがある時は、相談行い、アドバイスをもっている。衣料連携日報に状態等記入し、看護師と連携をとっている。 | | |
| 34 | — | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ご本人、ご家族、担当医との話し合いにより退院日を決めている。また、職員は、病院関係者と情報交換を行っている。病院にお見舞いに行き、入居者様に顔を見せるようにしている。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居される際、ご家族より終末期に関するケアの意向をお聞きし書面化している。ご家族の意向をもとに、ミーティング等で話し合い方針を共有している。個人情報にご家族が終末期にどのように過ごしたいか記入する欄を設けている。ご本人の状態が重度化された時など、かかりつけ医とご家族に方針等について話し合ってもらっている。 | | |
| 36 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に勉強会や研修へ参加し、急変時等の対応を確認している。年に1回、救命救急の実践研修を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎日、防災訓練を行っている。定期的に消防署立会いで訓練を行っている。 | | |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレの声掛けは、他の入居者様には聞こえないように、小さな声でしている。移動してもらってから、声掛けしている。 | | |
| 39 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 起床時の服を選ぶ際は、ご本人に声掛けし、選んでいただいている。食べたい物を聞いて献立に取り入れている。 | | |
| 40 | — | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様が過ごしたい場所で、ゆっくり過ごしていただいている。どう過ごしたいかは、希望を言われることはほとんどない方が多い。転倒のリスクのある方は、お部屋に行きたいと言われても、見守りができないので、希望に添えていない。 | | |
| 41 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出の際は、ご本人のお気に入りの服を着ていただいている。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立を作る際、好みを聞いて取り入れている。ごますり、いりこの頭取り、つぎ分け等はされるが、他の食事の準備や片づけをされることは、ほとんどない。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|--|--|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | — | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご本人の食べる量を確保できるよう食事形態に工夫している。居室で過ごす時間が多い方には時間を見て水分の声掛けを行っている。 | | |
| 44 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご本人に合わせて、声掛け、介助を行っている。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表をつけ、時間を見て声掛けを行っている。ソワソワと落ち着かれない時は、声掛けトイレ誘導を行っている。 | | |
| 46 | — | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳、ヨーグルト等を摂っていただいている。便通に良いお茶や、青汁を飲んでいただいている。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている | 希望を言われる方には、時間をお聞きし入浴していただいている。入浴時間が長くなる方は、午前中に入らせていただいているが、不満は言われず入浴されている。 | | |
| 48 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人のタイミングで起床していただいている。ご本人の体の調子次第で、日中も体を休めていただいている。定期的にシーツの交換を行い、汚れた際も、その都度交換を行い、清潔な布団で休んでいただいている。細めに室内温度の管理を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|--|---|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | — | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 様子観察が必要な薬は、記録や申し送りで職員全員で共有している。薬が変更になった際は、状態の様子観察を行い、変化があった際は、かかりつけ医や看護師に連絡行っている。 | | |
| 50 | — | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ドライブや散歩、買い物にお誘いしている。自発的に行ってもらえるよう、入居者様の目に付く位置に洗濯物を置き、行っていただく。入居者様が出来るところまで職員が準備し、そこから先をしていただいている。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや散歩、ご本人が行きたい時に同行している。日中は施錠をせず、いつでも出掛けられる状態である。ご家族と一緒に外出されることもある。マンツーマンにて、買い物などに出かける機会を設けている。 | | |
| 52 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物にお誘いし、好きな物を購入していただいている。 | | |
| 53 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族より、断られない限り、ご本人の希望がある時は、いつでもかけていただいている。宅配物が送られてきた際は、お礼の電話をかけていただいている。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下や居室等は、不快にならないような照明の色にしてある。リビングや玄関に花を飾ったり、廊下に入居者様の写真や作品を飾っている。廊下にソファや藤椅子を配置し、くつろいでいただける空間を作っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 | |
|------|----|---|---|------|-------------------|
| 自己 | 外部 | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下にソファを設置している。玄関先や玄関ホールにも設置している。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 以前、自宅で使用されていた物を持ってきていただけるようお話し、工夫している。ご本人の布団や毛布も持ってきていただいている。新しく購入されるものは出来るだけご本人と一緒に買い物に行き、好きなものを購入していただいている。 | | |
| 57 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 動線等考え、安全に出来るだけ自立した生活が送れるように家具を配置している。各所に手すりを設置している。途中、座って休めるよう椅子を設置している。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|---------------------------------|----|---|------------------|--------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） | | | | |
| 58 | — | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27) | | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | | ②利用者の2／3くらいの |
| | | | ○ | ③利用者の1／3くらいの |
| | | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 59 | — | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40) | | ①毎日ある |
| | | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ○ | ③たまにある |
| | | | | ④ほとんどない |
| 60 | — | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40) | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ○ | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 61 | — | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39) | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | ○ | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 62 | — | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51) | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | ○ | ④ほとんどいない |
| 63 | — | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33) | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | ○ | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 64 | — | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30) | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ○ | ②利用者の2／3くらいが |
| | | | | ③利用者の1／3くらいが |
| | | | | ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|---------------------------------|----|--|------------------|---------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） | | | | |
| 65 | — | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21) | ○ | ① ほぼ全ての家族と |
| | | | | ② 家族の2／3くらいと |
| | | | | ③ 家族の1／3くらいと |
| | | | | ④ ほとんどできていない |
| 66 | — | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22) | | ① ほぼ毎日のようにある |
| | | | | ② 数日に1回程度ある |
| | | | ○ | ③ たまにある |
| | | | | ④ ほとんどない |
| 67 | — | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | | ① 大いに増えている |
| | | | | ② 少しずつ増えている |
| | | | ○ | ③ あまり増えていない |
| | | | | ④ 全くいない |
| 68 | — | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | | ① ほぼ全ての職員が |
| | | | ○ | ② 職員の2／3くらいが |
| | | | | ③ 職員の1／3くらいが |
| | | | | ④ ほとんどいない |
| 69 | — | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | | ① ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ② 利用者の2／3くらいが |
| | | | ○ | ③ 利用者の1／3くらいが |
| | | | | ④ ほとんどいない |
| 70 | — | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | | ① ほぼ全ての家族等が |
| | | | ○ | ② 家族等の2／3くらいが |
| | | | | ③ 家族等の1／3くらいが |
| | | | | ④ ほとんどいない |